全斗委通信

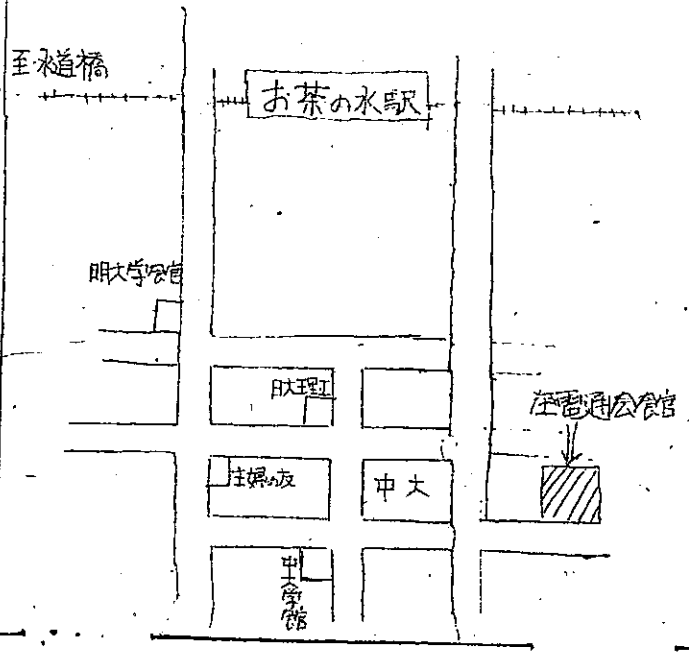
1969・11・15

日本大学全学共斗会議
全済学部斗争委員会
121号

11・15日大斗争勝利、全国学園斗争勝利、佐藤訪米阻止、沖縄斗争勝利に結集された全ての労働者、市民、学生の皆さんに全済学部斗争委員会より次の書き込みをしたいと思います。70年を控え、全国の学園・職場に於て、帝国主ギ者に対する斗いが展開されている現在、佐藤訪米の真の狙いは何か。米国内に於ける黒人問題、世界通貨ドル一元支配の崩壊により米国にとって、沖縄、東南アジアに於ける軍事費の増大を解消するため米帝国主ギはアジアからの後退を models なくされ、その後を日本帝国主ギが受け持つ形で危機を乗り切ろうとしている。そのための沖縄であり、11・19佐藤訪米の真の狙いは「本土の沖縄化」＝現在沖縄からベトナム人民を殺すためにB52が発進しているように、また、水爆を積載したB52が極東をパトロールしている状況を本土に持ち込むことだと思います。そう云う社会の大きな変化を促進するために、また、その一環として目的意識的に現在大学にかけられて来ている攻撃として佐藤反動政府による大学治安立法、日大に於る昨年10・1佐世発言にもみられる様に大学側ぐるみの教育の内容も一段反人民的な方向へ、換言すれば佐藤反動政府のより都合の良いように変えようとする意図が進行しています。その一定程度のメルクマールを11・19佐藤訪米によって図ろうとしているのです。ですから基本的には、それに対しての斗いを組んでいかねばなりません。しかし残念ながら今日的には、訪米阻止という一つの運動が学生・労働者・市民の中に貫ぬき継がれ、新たな高面を切り開く契機とはならないということです。なぜなら日大斗争、10・21斗争、等々、今までの運動が、そうであった様に斗争によって活動家を増やし、それをもって国家権力の暴力装置＝機動隊との実戦という様に斗争を矮小化していったからだと思います。これからはそうではなく、いかに大衆に向題を提起していくか、又、深化させるのかということを通じて、具体的には9・4以降の「動動の10日間」と言われる様なすばらしい斗争形態（実力斗争）と、フラク（スループ）における理論深化（位置付け・総括）、相互批判を通じる中よりの大衆斗争の方向性を追求していかなければならないと思います。（換言すれば、フラクの状況に応じた運動と学習会を通じるというパターンの定着化とフラクの拡充拡大の作業）その様な状況を学内に創出することにより学内秩序を集約する方向をもって、学友集約と運動の中より全済学部の解放斗争を展開され、地区における高面を主体的に切り開いていこうでなってしまうと思います。

以上の運動を通じる中より、11・19日大神田地区討記集会に結集し、新たな局面を主体的に切り開いていこうではありませんか!!

- 安保・沖縄斗争勝利！
- 地域解放拠点奪取！
- 全共斗の下学内秩序集約！
- 学内秩序の根底的マヒ！
- フラクの下学友集約！

11.16 佐ト訪米阻止斗争に結集せよ！（日比谷野音にて）11:00 A.M.

11.19 日大神田地区討記集会
至電通会館にて
（旧電お茶の水下車）
5:30 P.M ～ 10:00